



MUFG

三菱UFJフィナンシャル・グループ

中間期ディスクロージャー誌

本編

2005

世界で、日本で、新しい金融の時代へ。

私たちは、MUFGです。



MUFGのグループ総合力

普通銀行、信託銀行、証券会社に加え、カード会社、消費者金融会社、資産運用会社、リース会社、米国銀行（UBOC）などのグループ会社が一体となって、お客さまのあらゆる金融ニーズにお応えします。

カード・信販・消費者金融

UFJニコス アコム
DCカード DCキャッシュワンの
菱信DCカード モビット

ネット証券

カブドットコム証券

資産運用

三菱UFJ投信
エム・ユー投資顧問
国際投信投資顧問

信用保証・不動産調査

三菱UFJ住宅ローン保証
三菱UFJトラスト保証
エム・ユー不動産調査

債権管理・回収

エム・ユー・フロンティア
債権回収

不動産仲介

三菱UFJ不動産販売

外貨両替

東京クレジットサービス
(ワールドカレンシーショップ)

ウェルスマネジメント

三菱UFJウェルスマネジメント証券
ダイヤモンドプライベートオフィス
UFJプラザ21



MUFG

三菱UFJフィナンシャル・グループ

三菱東京UFJ銀行

三菱UFJ信託銀行

三菱UFJ証券

法人のお客さま向け ビジネス

ベンチャーキャピタル

三菱UFJキャピタル
エム・ユー・ハンズオンキャピタル

システム

ダイヤモンドコンピューターサービス
UFJIS
UFJ日立システムズ

個人のお客さま向け ビジネス

リース

ダイヤモンドリース
UFJセントラルリース
東銀リース
日本ビジネスリース

ファクタリング

三菱UFJファクター

確定拠出年金

日本確定拠出年金コンサルティング

資産管理

日本マスター
トラスト信託銀行

調査・コンサルティング

三菱UFJリサーチ&コンサルティング
日本シェアホルダーサービス
三菱アセット・ブレインズ

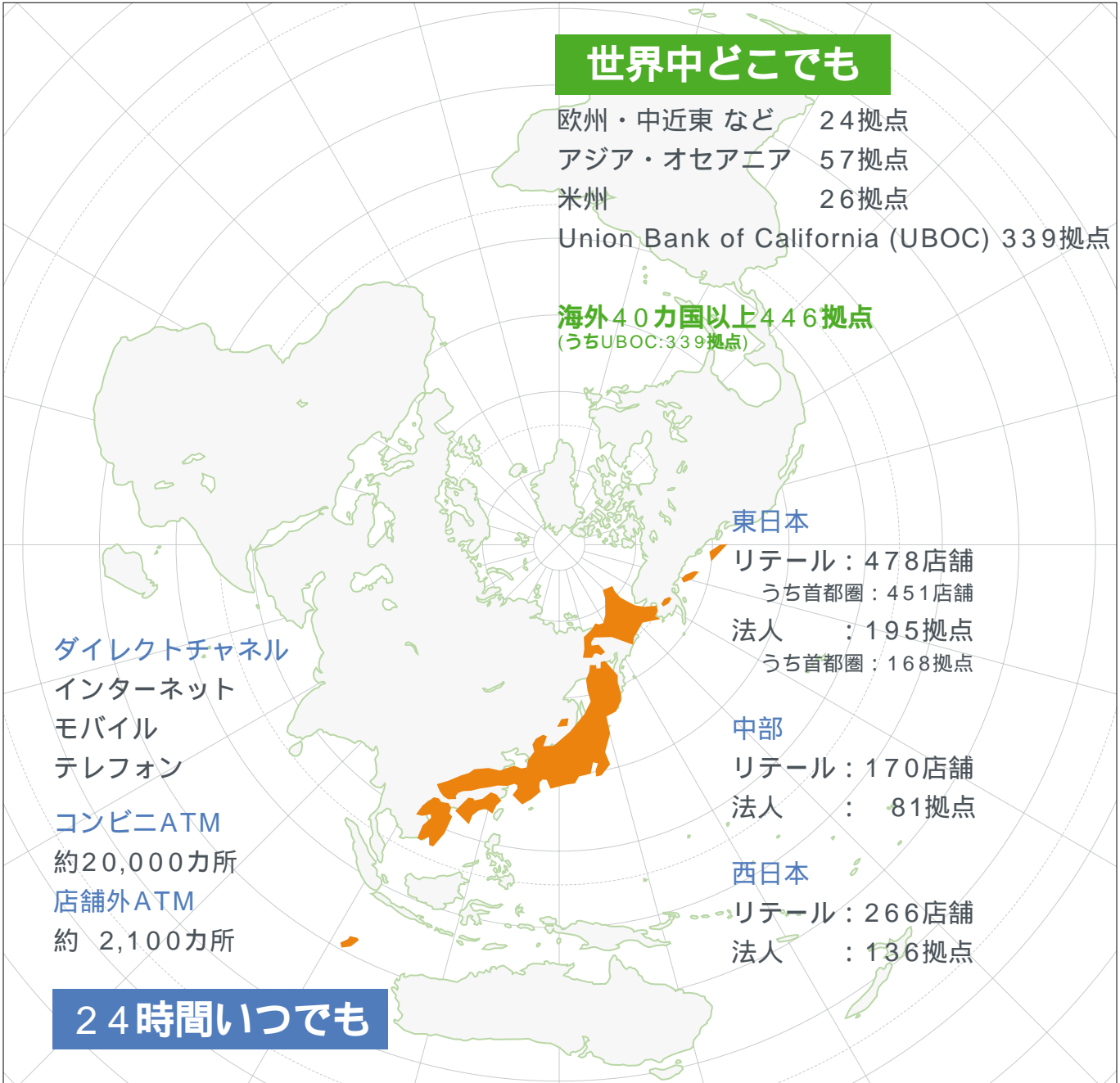
海外

Union Bank of California
三菱UFJセキュリティーズ
インターナショナル
BTMUキャピタル・コーポレーション

平成18年1月1日現在

MUFGのネットワーク

広範でバランスのとれた国内店舗網、本邦金融機関No.1の海外ネットワークに加え、利便性の高いダイレクトバンキング等を通じて、いつでもどこでも金融サービスをお届けします。



平成17年10月1日現在
(UBOCは平成17年6月30日現在)

ごあいさつ

2



取締役副会長
上原 治也

取締役社長
畔柳 信雄

取締役会長
玉越 良介

皆さまには、日ごろより格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。
私たちMUFGグループは、傘下の普通銀行・信託銀行・証券会社をはじめ多くのグループ会社为一体となって、お客さまのあらゆる金融ニーズに総合的、かつ機動的にお応えする「世界屈指の総合金融グループ」をめざし、平成17年10月にスタートいたしました。このたび、皆さまのMUFGグループに対するご理解を一層深めていただくために、グループ発足後初のディスクロージャー誌となる「中間期ディスクロージャー誌 2005」を作成いたしました。グループの「めざす姿」やMUFGならではのサービスなどを財務データ等と合わせて紹介しておりますので、ぜひご一読いただければと存じます。皆さまにおかれましては、今後ともMUFGグループに対する一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年1月

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

| | |
|----|------------------------|
| 4 | 社長メッセージ |
| 6 | 「サービスNo.1」の金融グループをめざして |
| 14 | 「信頼度No.1」の金融グループをめざして |
| 18 | 「国際性No.1」の金融グループをめざして |
| 22 | 統合までの歩み |
| 23 | グループ経営理念 |
| 24 | 事業運営体制 |
| 25 | コーポレート・ガバナンス |
| 26 | リスク管理 |
| 27 | コンプライアンス |
| 28 | 内部監査 |
| 29 | 平成17年度中間決算について |
| 32 | 不良債権の状況 |
| 33 | 【合併に伴うお知らせ】識別マークについて |

社長メッセージ



皆さまには、平素より格別のお引き立てを賜りまして、誠にありがとうございます。

三菱UFJフィナンシャル・グループ社長の畔柳でございます。

三菱UFJフィナンシャル・グループ発足後、初めて発刊するディスクロージャー誌の巻頭にあたり、私から、新グループの誕生やグループの業績、めざす姿についてご説明申し上げます。

MUFGの誕生について

昨年10月、持株会社である三菱東京フィナンシャル・グループとUFJホールディングスが合併し、三菱UFJフィナンシャル・グループが誕生いたしました。また同時に、傘下の信託銀行、証券会社も、それぞれ三菱UFJ信託銀行、三菱UFJ証券となり、本年1月には、東京三菱銀行とUFJ銀行が合併して三菱東京UFJ銀行が発足しました。

これにより、国内外の広範かつバランスの取れたネットワーク、グループ各社による幅広いサービスに加えて、国内最大級の顧客基盤を有する本格的な総合金融グループがスタートいたしました。

平成17年度中間期業績について

平成17年度中間期においては、三菱東京フィナンシャル・グループが業務純益の増加と与信関係費用の戻り益により3,006億円の中間純利益を計上、またUFJホールディングスが与信関係費用の大幅な改善を主因として4,110億円の黒字を計上したことから、両社合算の中間純利益は7,117億円と、前年同期と比べ1兆円以上の増加となりました。

また、お取引先の業況改善の支援などに努めた結果、不良債権比率も両社単純合算で2.72%と、平成17年3月末の3.33%から大きく低下いたしました。

さらに、平成17年10月から12月にかけて、5,795億円の公的資金を返済するなど、財務・資本基盤の健全化に向けた取り組みも着実に成果をあげております。

グループのめざす姿について

MUFGグループは、お客さま本位の考えを徹底し、お客さまから強く支持される「世界屈指の総合金融グループ」をめざしています。

そのためには、まずサービス業の原点として、いかにお客さまにご満足いただける優れた商品・サービスを提供することができるかということが何よりも重要だと考えます。

同時に、健全な財務体質やコンプライアンスの徹底、環境保全や社会の持続可能な発展への貢献などを通じて、お客さまや社会から確固たる信頼をいただくことができなければ、企業の発展は望めません。

さらに、グループが有する広範かつバランスのとれた国内ネットワークと世界40カ国以上をカバーする海外ネットワークを駆使して、地域に密着しながらもグローバルな視野に立ち、多様化するお客さまのニーズに迅速・的確にお応えしていくことは、国際化がますます進むなか、必要不可欠なものです。

MUFGは、これら「サービス」「信頼度」「国際性」のいずれの点においても、お客さまや社会から最も支持される金融グループとなることを通じて、「世界屈指の総合金融グループ」を実現してまいります。

役職員一同、「めざす姿」の実現に向け、グループの総力を結集し取り組んでまいりますので、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年1月

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ
取締役社長

畔柳信雄

「サービスNo.1」の金融グループをめざして

MUFGグループは、総合金融グループとしての強みを活かし、お客さま一人ひとりのニーズに合った“MUFGならではの”サービスをご提供しています。

6



個人のお客さま向けサービス

結婚、マイホームの購入、子どもの教育そして老後の生活。MUFGグループでは、お客さまの夢や目標の実現を、さまざまな商品・サービスを通じてサポートしています。

資産運用ニーズへの対応

資産運用ニーズには、円預金、外貨預金、投資信託、投資型年金保険、外国債券などさまざまな資産運用商品をご用意しています。平成17年11月には、MUFGグループ誕生後の新商品第一弾として、マニライフ生命保険と共同で開発した投資型年金保険「トゥーサプライズ」の取り扱いを開始しました。

また、お客さまのニーズにグループ一体となってお応えしていく体制も整えています。証券仲介制度を活用して、証券総合口座の開設や株式・外国債券などの売買注文を三菱UFJ証券に仲介しているほか、融合型共同店舗「MUFGプラザ」では、銀行・信託・証券の総合金融サービスをワンストップでご提供しています。平成17年9月には、メリルリンチ・グループと共同で、富裕層のお客さま向けに本格的なプライベートバンキングサービスを提供する会社の設立を発表しました。

投資型年金保険に、驚きの新提案。

三菱東京UFJ銀行

投資型年金保険
トゥーサプライズ

サプライズ1
ご希望の保険料に、
さらに優待利率が適用されます。

サプライズ2
ご希望の保険料に、
さらに契約期間が延長されます。

さらに
契約継続が優先保証。

三菱東京UFJ銀行

投資型年金保険「トゥーサプライズ」

「トゥーサプライズ」は、契約日の翌月からのお引き出しも可能な「つかう楽しみ」と、運用でふえた分は5年ごとに確保できるという「ふやす楽しみ」の2つの機能を併せ持った画期的な投資型年金保険です。

関係官庁の許認可等を得たうえで、平成18年度上期の極力早い時期での業務開始をめざしています。

お借り入れニーズ/クレジットカードへの対応

MUFGグループでは、個人のお客さまのお借り入れニーズに積極的にお応えしています。住宅ローンの分野では、お借り入れ金額・期間、ご返済方法、超長期固定金利型ローンをはじめとする各種キャンペーン等、お客さまのニーズに合った商品を取り揃えているほか、休日・夜間相談会を実施するなど、平日や日中お忙しい方でもご相談いただける体制を整えています。

また、アコムとの提携を中心とする消費者金融の分野では、電話、インターネット、ATMを活用したスピーディーで便利な貸出商品もご提供しています。

クレジットカードの分野においては、三菱東京UFJ銀行は、キャッシュカードにリボルビング機能付クレジットカードや電子マネーなどの機能を加えた多機能ICカード「三菱東京UFJ-VISA」を取り扱っています。また、平成17年10月には、UFJカードと日本信販が統合してUFJニコス株式会社が誕生し、カード会員数約2,000万人、カード取扱高約4兆円の国内最大級のカード会社となりました。



三菱東京UFJ銀行
本郷支店
運用相談窓口担当
塚本 淳子

“相談しやすさ”を大切にします。

資産運用に対するお客さまのニーズは、元本保証商品からリスク商品まで多様化しています。統合により一層充実した商品ラインアップのなかから、お客さまのニーズに最も適した商品をお選びいただけますし、私もお薦めしやすくなりました。

日本で一番大きい銀行となりましたが、一人ひとりのお客さまを大切にしていく気持ちは変わりません。これからも運用相談のプロとして日々勉強するとともに、“親しみやすさ”“相談しやすさ”を大切にしていきたいと思います。

UFJニコス

UFJニコスは、「UFJカード」と「NICOS」の2つのブランドを通じて、高い信頼を得る革新的な金融サービスを開発・提供することをめざしています。国内最高水準の偽造防止技術を採用した「UFJ NICOSギフトカード」や非接触ICクレジット決済サービス「スマートプラス」の展開など、お客さまのニーズに合った先進的なサービスをご提供しています。



「UFJカード」のCMに出演している竹野内豊さん



「NICOS」のCMに出演している妻夫木聡さん



三菱UFJ信託銀行
本店営業部
財務コンサルティング担当
早川 浩司

信頼関係が何より大事です。

ご家族に資産を円滑に引き継ぎたいというお客様のニーズに対して、金融資産や不動産など資産全体の評価・分析から不動産の売買・有効活用のアドバイス、遺言書の作成相談・管理・執行まで、信託銀行ならではのサービスでお応えしています。この仕事は特にお客様との信頼関係が大事ですから、お客様とのコミュニケーションを引き続き大切にするとともに、これまで蓄積した知識やノウハウを駆使して、より優れたサービスをご提供していきたいと思っております。

相続・不動産ニーズなどへの対応

高齢化社会の到来により、ご自身の財産を次の世代に大切に引き継いでいくニーズはますます高まっています。三菱UFJ信託銀行では、生前贈与信託や遺言信託などを活用して、お客様のニーズにお応えしています。

具体的には、遺言書の作成・保管、遺言の執行を、遺言の執行者としてお引き受けする遺言信託「遺心伝心」、手続きに不慣れな方や、時間に余裕のない方に代わって相続に関する手続きを行う遺産整理業務「わかち愛」、生前贈与をお手伝いする生前贈与信託「パーソナルトラスト」などのサービスをご提供しています。また、お客様の財産を把握・分析し、お客様に財産計画をご判断・ご決定いただくための一助としていただく「資産承継プランニング」や、企業オーナーのお客様向けに、事業承継を中心にコンサルティングする事業経営財務診断「オーナーシップ」をご用意しています。

三菱UFJ信託銀行では、こうしたサービスを、信託代理店制度を活用して、三菱東京UFJ銀行や三菱UFJ証券などのグループのお客様のほか、地方銀行や野村證券のお客様にもご提供しています。



パーソナルトラスト（生前贈与信託）

「パーソナルトラスト」は、お客様から信託された資金を安定的に運用しつつ、お客様のご要望に合わせた「特約」を設定することができるオーダーメイド型の信託商品です。「老後の財産管理を安心して任せたい」「家族のために生活資金、教育費、療養費などを用意したい」というニーズにお応えします。

利便性の高いチャネル（お客さまとの接点）展開

MUFGグループでは、首都圏・中部圏・近畿圏を中心に店舗ネットワークをバランス良く展開しているほか、窓口の営業時間を延長し、個人のお客さまの日常なお取引に対応した店舗や、資産運用のご相談を専門にお受けする店舗など、お客さまのニーズに合わせた多様な店舗を設置しています。また、融合型共同店舗「MUFGプラザ」を全国に展開しています。

ATMネットワークの充実・最適化にも取り組んでいます。両行計約9,000台のATMで他行利用手数料無料で現金のお引き出しができるほか、コンビニエンスストア内約20,000台、郵便貯金約26,000台のATMもご利用いただけます。また、三菱東京UFJ銀行では、中部・関西地区の地方銀行との「ATM現金お引き出し時他行利用手数料の相互無料化」(平成18年1月現在7行)やJR東日本のATM「VIEW ALTTE」との提携(平成18年度上期中の予定)など、さらなる利便性向上にも努めています。さらに、「三菱東京UFJダイレクト」では、インターネット・電話・モバイルを通じて、24時間365日、円預金・振込・外貨預金・投資信託・各種料金払込などのお取引をご利用いただけます。また、「MUFGテレビバンク(旧東京三菱銀行店舗)」「テレビ窓口(旧UFJ銀行店舗)」では、平日夜間や土日祝日もテレビ電話を通じてオペレーターと対話しながら各種諸届けのお手続きが可能です。

MUFGグループでは、こうした取り組みを通じて「いつでも」「どこでも」ご利用いただける利便性の高いチャネルを実現しています。

三菱東京UFJ銀行はE-net ATM、ローソンATM、セブン銀行ATM、三菱UFJ信託銀行はE-net ATMと提携しています。

MUFGプラザ

MUFGプラザは、個人のお客さま向けに、グループの銀行・信託・証券のサービスをワンストップでご提供する融合型共同店舗です。平成17年12月末現在で全国に60店舗展開しており、今後も積極的に拡大していく予定です。





法人のお客さま向けサービス

近年、法人のお客さまのニーズもますます多様化・高度化しています。MUFGグループは、中堅・中小企業から上場・大企業に至るすべてのお客さまのニーズに、銀行・信託・証券に加え、リース会社など数多くのグループ会社の機能を結集してお応えし、お客さまにとって真に頼れるパートナーとなることをめざしてまいります。

お取引チャネルの強化

MUFGグループでは、中堅・中小企業のお客さまのニーズにお応えするため、お取引チャネル（接点）の充実を図っています。三菱東京UFJ銀行では、これまで拠点がなかった地域に企業のお客さま専門の店舗である「法人営業所」を開設するなど法人取引拠点を全国に展開しています。また、全国に58万社もの関与企業を持つ大手税理士団体「TKC全国会」との業務提携を通じたお取引を引き続き行っていきます。

有人店舗展開に加え、「BizSTATION」「U-Line Web」などインターネットを活用したダイレクトチャネルの整備も進め、お客さまの利便性向上に努めています。

法人営業所の開設

三菱東京UFJ銀行では、これまで拠点がなかった地方都市を中心に、「法人営業所」を新設し、“地域密着型の中堅・中小企業取引”を行っています。今後もさらなる店舗ネットワークの充実に取り組んでいきます。

全国各地の法人営業所（平成17年12月末現在）

| | | | | |
|----|----|----|-----|-----|
| 旭川 | 盛岡 | 秋田 | 郡山 | 宇都宮 |
| 前橋 | 富山 | 福井 | 松江 | 松山 |
| 高知 | 大分 | 宮崎 | 鹿児島 | 那覇 |

商品ラインアップの拡充

三菱東京UFJ銀行では中小企業のお客さまの資金調達ニーズにお応えすべく、ビジネスローン「融活力」をはじめとする多様な商品ラインアップを展開しています。



お借り入れ商品のラインアップ拡充

MUFGグループでは、お客さまの多様なお借り入れニーズにお応えするため、商品・サービスの開発に努めています。ビジネスローン「融活力」をはじめ、統計手法を活用した審査モデルにより、お客さまのニーズに迅速かつ的確にお応えできる商品を多数取り揃えているほか、平成17年度上期には、新たに小規模法人や個人事業者のお客さまを対象に、クレジットカード機能とカードローン機能を一体にした新型ビジネスカード「BIZWAY」の販売を開始しました。

ビジネスマッチング

MUFGグループは、国内の法人お取引先数約40万社（うちご融資先約13万社）と、圧倒的なお取引先基盤を有しています。この基盤をもとに、MUFGグループでは、お取引先企業間のビジネスマッチング（お取引先紹介）の機会を設け、お取引先の事業拡大、事業提携を支援しています。平成17年11月には、MUFG発足後初の大規模商談会として「第1回Business Link 商賣繁盛 at TOKYO DOME」を開催しました。



三菱東京UFJ銀行
笹塚支社
中小企業のお取引先向け
ご融資・外為業務担当
森島 正和

お客さまの「ファン」として。

お取引を開始する際は、お客さまの懐に飛び込んで、私自身が一消費者となり、商品・サービスを体験するようにしています。まずはお客さまの「ファン」となり、そのうえで事業発展のためのご融資や各種アドバイスをさせていただいています。

統合により銀行は大きくなりましたが、引き続きお客さまの立場に立ったきめ細かいサポートに努めるとともに、三菱東京UFJ銀行の強みである海外ネットワークも活用し、お客さまの事業拡大のお手伝いをしていきたいと考えています。

「第1回Business Link 商賣繁盛」の開催

平成17年11月16日、MUFG発足後初の大規模商談会となる「第1回Business Link 商賣繁盛 at TOKYO DOME」を開催しました。当日は、お取引先企業約2,500社にご参加いただき、約4,000件の商談が行われるなど大変盛況でした。



他金融機関との戦略的業務提携

規制緩和が進むなか、平成16年4月には生命保険会社に銀行代理業務が解禁されました。MUFGグループでは、平成17年4月に大同生命保険と業務提携を行い、大同生命のお客さまにもMUFGグループの付加価値の高いお借り入れ商品を提供しています。また、平成17年9月には中小企業のお客さま向けサービスに関して東京海上日動火災保険と提携、平成17年10月には農林漁業金融公庫とも提携するなど、業務提携を通じて多くのお客さまにMUFGグループの商品・サービスを提供しています。今後の貸付代理店の規制緩和も展望し、一般事業法人も含めた業務提携を積極的に進めていきます。

LBO (Leveraged Buy-Out)

企業の合併・買収 (M&A) の一形態で、買収者が、買収の対象企業の生み出すキャッシュ・フローや保有する資産を担保に資金調達 (借入) し、これを梃子 (原資) に買収を行う形態のことです。

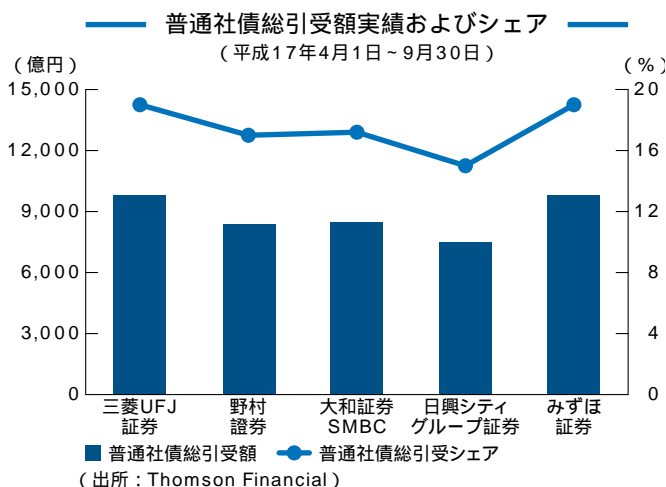
MBO (Management Buy-Out)

M&Aの一形態で、買収対象企業の経営陣や従業員などが自社や自社の一事業部門を自らの出資と金融機関や投資ファンドなどからの借入や出資をもとに買収する形態のことです。近年では敵対的買収への対抗策として経営陣がMBOを実施し、非公開会社化するといった事案が見られるなど件数が増加基調にあります。

投資銀行・証券ニーズなどへの対応

買収ファイナンス (LBO / MBO) やM&A、アセットファイナンスを軸としたバランスシートのスリム化、株式公開 (IPO) 支援、各種デリバティブ商品、シンジケート・ローンなど、お客さまのニーズはますます多様化・高度化しています。

MUFGグループでは、強みであるグローバル機能や三菱UFJ証券の総合証券機能も最大限に活用し、銀行・信託・証券が一体となって最高レベルの投資銀行・証券サービスをスピーディーにご提供します。



三菱UFJ証券誕生

平成17年10月1日、三菱証券とUFJつばさ証券の合併により「三菱UFJ証券」が誕生しました。MUFGグループの中核証券会社として、三菱UFJ証券のお客さまはもとよりグループ各社のお客さまにも、付加価値の高い商品・サービスをご提供しています。

会社概要

| | |
|---------|-------------|
| 資本金 | 655億1,800万円 |
| 従業員数 | 6,278名 |
| 預り資産 | 20兆3,054億円 |
| 上場証券取引所 | 東京、大阪、名古屋 |

平成17年9月末時点の旧三菱証券、旧UFJつばさ証券合算数値

信託・不動産ニーズなどへの対応

不動産業務では、邦銀No.1のお取引先基盤、情報ネットワークを活かすため、グループ内の不動産情報を三菱UFJ信託銀行に集約、お客さまの不動産取引ニーズに対し、最適な提案を行える体制を整備しています。

圧倒的な市場シェアを有する証券代行業務では、平成17年9月に、世界最大の証券代行機関であるコンピュータシェア社との間で合併会社（日本シェアホルダーサービス株式会社）を設立し、機関投資家判明調査をはじめとした株主向けコミュニケーション（SR）およびIPO関連のサービスメニューの充実を図っています。

受託財産業務では、企業財務への直接・間接の影響で注目度の高い企業年金制度運営のパートナーとして、新型年金の導入、運用付退職給付信託の設定など、これまで以上に高度かつ専門的なコンサルティングを行っていきます。さらに、株式に関連した信託としてご利用の多い金庫株信託 や企業価値防衛策のひとつであるライツプラン信託 に続き、お客さまのニーズに合った商品を開発していきます。

資産流動化業務では、企業が保有する資産の信用力に着目し、その信用力に基づいて信託受益権を発行することによりお客さまの資金調達をサポートしています。流動化の対象となる資産は、売掛債権（売掛金）、手形債権、貸付金等の資産はもちろんのこと、リース債権、自動車ローン債権等の金銭債権や、入居保証金、不動産などの将来何らかのキャッシュ・フローが見込まれる資産となります。また、平成16年12月の信託業法改正により知的財産権の信託も可能となりました。

金庫株信託とは、商法で定められている金庫株制度を利用する際のお客さまのコンプライアンス面や実務上の各種負担軽減のため、信託の機能を利用してお客さまの自己株式を市場から取得・保管することを目的とした商品です。

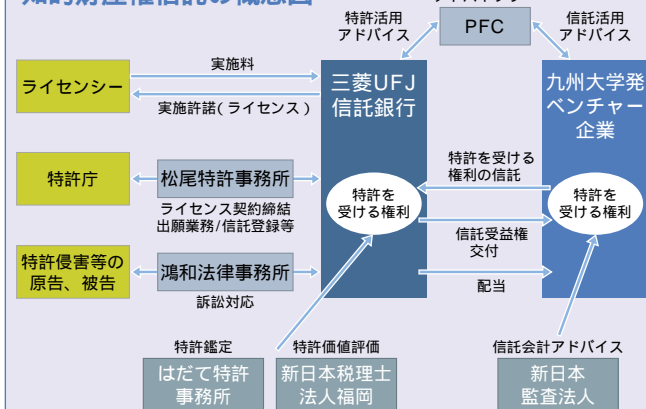
ライツプランとは、敵対的買収者が行使できない新株予約権をあらかじめ発行しておくことで、企業価値を損なうような買収を仕掛けにくくするしくみのことです。「ライツプラン信託」はそれを信託の機能を利用することで実現したもので、企業価値防衛という社会的ニーズにお応えする商品です。

大学発特許の知的財産権信託受託に向けた基本合意書の締結

三菱UFJ信託銀行は、平成17年11月に、九州大学発ベンチャー企業が保有する「特許を受ける権利」の受託に向けた基本合意書を関係者間で締結しました。

お客さまにとっては、信託機能を活用することにより、専門家集団が関与してライセンス戦略を実行することが可能となるとともに、将来の資金調達の実現につながるしくみが確立されることになります。

知的財産権信託の概念図



「信頼度No.1」の金融グループをめざして

MUFGグループは、最も信頼いただける金融グループをめざし、財務健全性のさらなる向上、コンプライアンス（法令等遵守）の徹底、セキュリティの強化に努めます。また、お客さま満足度（CS）の向上、社会貢献活動、環境保全などを通じ、社会への責任（CSR）を果たしていきます。

14



財務健全性の追求

平成17年4月のペイオフ解禁以降、金融機関の安全性をお客さまご自身で判断し、取引金融機関を選択することがますます重要になっています。同時に、金融機関には、お客さまからお選びいただくため財務健全化に一層努めるとともに、経営内容をわかりやすく開示することが求められています。

MUFGグループは、平成17年9月末時点で、不良債権比率2.72%、自己資本比率約12%と強固な財務基盤を持つ金融グループです。グループ発足後も公的資金の返済を進めるなど、資本の質の向上に努めています。今後も、財務健全性のさらなる向上に努め、最も信頼いただける金融グループをめざします（詳細は、P31～P32をご覧ください）。

コンプライアンス（法令等遵守）の徹底

MUFGグループでは、コンプライアンスを徹底していくため、倫理綱領を定め、このなかで「信頼の確立」を掲げています。コンプライアンスの態勢を整備し、意識の向上を図るために統括部署が社内研修等を通じ、役職員に倫理綱領の周知を行っています（コンプ

MUFG倫理綱領

1. 信頼の確立

グループの社会的責任と公共的使命の重みを十分認識し、情報管理を徹底するとともに、企業情報の適時適切な開示を含め、健全かつ適切な業務運営を通じて、社会からの揺るぎない信頼の確立を図ります。

2. お客さま本位の徹底

常にお客さま本位で考え、十分なコミュニケーションを通じて、お客さまのニーズに最も適合する金融サービスを提供し、お客さまの満足と支持をいただけるよう努めます。

3. 法令等の厳格な遵守

あらゆる法令やルールを厳格に遵守し、社会規範にもとることのない、公正かつ誠実な企業活動を遂行するとともに、グローバルな総合金融グループとして国際的に通用する基準も尊重します。

4. 人権および環境の尊重

お互いの人格や個性を尊重するとともに、人類共通の資産である地球環境の保護を重視して、社会との調和を図ります。

5. 反社会的勢力との対決

市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては、毅然とした態度を貫きます。

ライアンス態勢については27ページをご覧ください。

個人情報の保護についてもグループ全体で取り組んでいます。お客さまの個人情報を適切に取り扱うことがMUFGグループの社会的責務であると認識し、個人情報保護方針を定め、公表しています。役職員がこれを遵守することによって、お客さまの個人情報の保護に万全を尽くしていきます。

キャッシュカードの偽造・盗難問題への対応

昨今、キャッシュカードの偽造・盗難など、金融サービスを悪用した詐欺事件が多発しています。こうしたなか、MUFGグループでは、お客さまに安心してキャッシュカードをご利用いただくため、徹底したセキュリティの強化に努めています。

三菱東京UFJ銀行では、「手のひら静脈認証」機能を搭載した多機能ICカード「スーパーICカード『三菱東京UFJ-VISA』」をご提供しています。三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行では、お客さまに暗証番号管理の徹底をお願いするとともに、ATMでの暗証番号変更や1日当たりのATM利用限度額を任意に設定できるサービスをご提供しています。また、異常取引検知システムによるモニタリング、ATMののぞき見防止策等も実施しています。さらに、キャッシュカード規定を改定し、偽造カード、盗難カードによる払い戻し等に関する条項を新設しました。

手のひら静脈認証（身体認証機能）について
指紋や虹彩・顔などの身体的な特徴、筆跡・声紋などの行動的特徴を用いて個人を識別する技術、あるいはその技術を用いて認証することをバイオメトリクスといえます。
一般的には「生体認証」と日本語表記されることが多いのですが、MUFGグループでは「身体認証」と呼んでいます。三菱東京UFJ銀行では技術的な安定性や利用のしやすさなどを考慮し、「手のひら静脈認証」方式を採用しています。

「スーパーICカード『三菱東京UFJ-VISA』」

手のひら静脈による身体認証技術の導入により、セキュリティを抜本的に強化した多機能ICカードです。ICキャッシュカード対応/専用ATMや窓口で「手のひら静脈認証」によるお取引をご利用いただけます（旧東京三菱銀行の店舗のみ）。平成18年2月には、身体認証とICに加え磁気ストライプを搭載した「三菱東京UFJ-VISA<コンビタイプ>」を発売する予定です。磁気ストライプ搭載により、旧UFJ銀行の店舗や他金融機関、コンビニエンスストア等でもご利用いただけるようになります。





三菱東京UFJ銀行
リテール営業部
CS企画担当
平塚 順子

“サービス業のプロ”をめざします。

お客さまにサービスをご提供していくうえで商品の優位性ももちろん大切ですが、サービス業のプロとして、お客さまにご満足いただける心地よい「応対」ができるかどうかが大変重要だと考えています。「三菱東京UFJ銀行サービススタンダード」の制定や研修などを通じて、職員のサービスに対する意識醸成に努めるとともに、常にお客さまの声に耳を傾け、ニーズに合ったサービスをご提供し、“MUFJと取引してよかった”と思っただけの取り組みを進めていきます。

お客さま満足度（CS）向上へ向けた取り組み

お客さまにご満足いただけるサービスを提供するため、三菱東京UFJ銀行では、「お客さまの声」を商品・サービスの改善に反映するしくみを構築しています。具体的には、各種満足度調査や店舗に備え付けの「お客さまの声ハガキ」等でいただいたご意見・ご要望を、社内で共有するとともに、経営者にも回覧・共有し、商品・サービスの改善に活用しています。旧東京三菱銀行、旧UFJ銀行では、「待ち時間を何とかしてほしい」「平日の昼間には窓口に行けない」といったお客さまの声に対して、待ち時間短縮に向けた取り組みや予想待ち時間の表示、ご来店予約サービス等を実施するとともに、夜間や土日祝日も銀行窓口と同様にご相談できる「テレビバンク」「テレビ窓口」の設置などを実施してきました。こうした取り組みを引き続き三菱東京UFJ銀行で実施していきます。

さらに、お客さまに対するサービスを継続的に向上させるしくみに対して、平成17年8月にISO品質認証（ISO9001）を旧東京三菱銀行拠点で取得しました。今後、対象範囲を拡大していく予定です。

お客さまの声ハガキ

「お客さまの声ハガキ」などを通じてお客さまから寄せられた声は、商品・サービスの改善・開発に活かしています。また改善例を店内ポスターやホームページに掲載し、お客さまとのコミュニケーションの一環として活用しています。



三菱東京UFJ銀行サービススタンダード

三菱東京UFJ銀行では、お客さまの満足度をより高めていくため、「三菱東京UFJ銀行サービススタンダード」「ホスピタリティスタンダード」を制定しています。



社会貢献活動への取り組み

MUFGグループでは、「MUFG体験教室」の開催など児童福祉施設への支援を行っています。これまでMTFGグループとして参加してきましたが、今後はMUFGグループとして引き続き取り組んでいきます。

また、行員による部室店単位での各種の社会貢献活動、国内外の学生に対する奨学金制度、ボランティア普通預金の取り扱い、信託機能を活かした取り組み（公益信託設定など）、財団を通じた企業育成や国際交流活動などの社会貢献活動などに取り組んでいます。

環境保全への取り組み

MUFGグループでは、環境に配慮した企業活動への融資など、金融機関としての本業を通じた取り組みを進めています。三菱東京UFJ銀行では、風力発電・太陽光発電・バイオマス（生物体）などの代替エネルギー・再生可能エネルギー等、新エネルギー関連の融資に積極的に取り組んでいます。

また、オフィスにおいて、コピー紙利用の削減と再生紙の利用促進、ごみの分別を通じた廃棄物のリサイクル、夏季の軽装での省エネルギーなど、環境負荷軽減に努めています。平成17年4月には、旧東京三菱銀行の本館とすべての銀行業務において環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得しました。今後、対象範囲を拡大していく予定です。

ISO/ISO14001

ISOとは、国際標準化機構（International Organization for Standardization）の略で、1947年に製品やサービスの国際取引のために科学技術や経済活動の標準化を行うことを目的として設立された組織です。

ISO14001は、環境への影響を低減するように配慮していく組織的なしくみに関する国際規格のことで、審査機関により規格を満たすしくみを構築していると認められた組織は、認証を取得することができます。

MUFG体験教室

MUFG・三菱東京UFJ銀行・三菱UFJ信託銀行では児童福祉施設の子どもたちと職員を招待して「MUFG体験教室」という日帰りイベントを開催しています。

最近では平成17年11月に大阪府堺市で開催しました。



ISO14001

旧東京三菱銀行の本館とすべての銀行業務において、ISO14001規格の認証を取得しました。



「国際性No.1」の金融グループをめざして

邦銀随一のグローバルネットワーク、各国ビジネスに精通した豊富な人材など、グループの持つ強みを最大限活用し、「国際性No.1」の金融機関として、お客さまのニーズに的確・迅速に対応していきます。

18



法人のお客さまの海外進出サポート

近年、大企業のお客さまのみならず中堅・中小企業のお客さままで海外進出・海外での事業拡大ニーズはますます広がりを見せています。

MUFGグループは、グループの強みである邦銀No.1のグローバルネットワークや豊富な人材を最大限活用し、こうしたお客さまの海外進出・事業拡大ニーズに積極的に対応しています。

国内の法人営業拠点には東南アジアおよび中国に関する情報提供や進出相談などをお受けする「ASEANデスク」「CHINAデスク」を設置しているほか、本部の国別・地域別専門スタッフのサポートにより、お客さまのニーズにきめ細かく対応しています。

また、お客さまの海外進出ニーズの高い国・地域に対する投資セミナーも積極的に開催しており、多くのお取引先企業にご参加いただいています。

そのほか、海外拠点などを通じて得た世界各国・地域の諸情報を取りまとめた「投資ガイドブック」も出版しています。



投資セミナーの開催

MUFGグループでは、海外での事業展開にご興味のあるお客さま向けに投資セミナーを開催しています。平成17年7月には、東京・名古屋・大阪でインド投資セミナーを開催し、合計330名にご参加いただき大盛況に終わりました。また、同11月には、東京・名古屋・大阪でロシアセミナーを開催しました。

海外拠点におけるサポート体制

米州地域

米州地域では、支店・出張所・駐在員事務所・現地法人に加え、ユニオン・バンク・オブ・カリフォルニアを有しており、米州地域で最大の拠点ネットワークを持つ外国銀行グループのひとつです。幅広いネットワークと最先端の金融技術により、お客さまのニーズにお応えしています。

通常のご融資のほか、シンジケート・ローンやリース、売掛債権の流動化などを通じて資金調達ニーズにお応えするほか、資金決済のお手伝いや資産運用・企業買収・提携などへのアドバイス業務など、さまざまなサポートを行っています。平成17年度上期には邦銀で初めて企業向け貸出債権の売買業務を開始しました。

中南米地域においても幅広いネットワークを有しており、シンジケート・ローンや制度金融を活用したファイナンス、資源開発にかかるプロジェクトファイナンスなどを積極的に行っています。



三菱東京UFJ銀行信託会社
(ニューヨーク)
US Corporate
Banking Group
米国多国籍企業向け
融資担当

Jim Brown

世界トップ水準のサービスを。

旧東京三菱銀行の国際業務の“強さ”は、お客さまから十分認識されていましたが、経営統合によりさらにプレゼンスが拡大し、商品提供力は飛躍的に向上しました。

お客さまに、より上質のサービスを提供し続けることはMUFGグループの使命です。世界を舞台に、MUFGグループならではの海外ネットワークを駆使し、お客さまのニーズに的確にお応えすることで、米国においてこれまで築いてきたお客さまとのお取引関係を維持・発展させていきたいと思っております。

ユニオン・バンク・オブ・カリフォルニア概要 (略称：UBOC)

UBOCは、カリフォルニア州を中心に、米国内に319の店舗と従業員約9,900名を有し、個人取引から資産運用、法人取引までさまざまな金融サービスを地元密着でご提供しています。三菱東京UFJ銀行では、日本にいながらUBOCの米ドル建個人専用非居住者預金口座を開設できる「カリフォルニア・アカウント」をご提供しています。



<米州地域拠点 (UBOCを除く)>



< 欧州・ロシア・中近東・アフリカ 地域拠点 >



欧州・ロシア・中近東・アフリカ地域

MUFGグループでは、平成17年10月1日現在で欧州・ロシア・中近東・アフリカ地域に支店・駐在員事務所合わせて24拠点（三菱東京UFJ銀行と三菱UFJ信託銀行の合算）を展開しています。特に、EU加盟国の拡大などを契機に日系企業の進出も増加傾向にある中東欧地域にも力を入れています。

平成17年度上期には、プラハに邦銀で初めて駐在員事務所を設立しました。また、スロバキア投資庁、サンクトペテルブルク市と業務協力協定を締結し、日本企業の現地進出への支援体制を拡充するなど、中東欧・ロシア地域における業務基盤の一層の充実を図っています。

中近東地域では本邦金融機関随一のネットワークを活かし、シンジケート・ローン、プロジェクトファイナンス、貿易金融などを中心に活発な業務展開を行っています。平成17年2月には英国の金融専門誌「Euro Week」より“Best Arranger of Middle Eastern Loan”を4年連続で受賞しました。

資源産出国として将来性が注目されるサハラ砂漠以南のアフリカ地域では、ヨハネスブルグに駐在員事務所を有しており、南アフリカを中心とする同地域で事業展開されるお客さまを事業計画策定段階からお手伝いし、設備資金ニーズにお応えするなど、積極的に活動しています。

サンクトペテルブルク市と業務協力協定締結

三菱東京UFJ銀行は、平成17年11月にサンクトペテルブルク市・日本間の投資促進を目的とした業務協力協定を締結しました。サンクトペテルブルク市は、人口450万人を有するロシア第二の都市であり、ロシア国内有数の工業都市として、日系企業のお客さまからも注目されています。



アジア・オセアニア地域

MUFGグループは、平成17年10月1日現在でアジア・オセアニア地域に支店・出張所・駐在員事務所合わせて57拠点（三菱東京UFJ銀行と三菱UFJ信託銀行の合算）を展開しています。「アジアに強いMUFG」として邦銀随一の拠点ネットワークと情報収集力を活かし、商品・サービスの一層の充実に努めています。

現地通貨業務にも力を入れています。アセアン地域ではCMSの高度化を通じた現地通貨による資金決済サービスのご提供や、デリバティブ取引を通じた為替・金利リスクヘッジ手法の提供、貿易金融や売掛債権の流動化ビジネスなど、多様かつ高度な商品・サービスをご提供しています。特にシンガポールに設置した「アジア法人業務部」「アジア投資銀行部」がアセアン地域の中心となって商品開発・提供にきめ細かく対応しています。

中国では、邦銀最大の5支店で人民元業務を行っており、地方政府や中国国家開発銀行、中国銀行等の国有商業銀行、地場金融機関との業務協力協定を通じ、より地域に密着した付加価値の高い情報・サービスを提供できる体制を整えています。また、平成17年度上期には中国内の5支店で邦銀初となる人民元先物業務のライセンスを取得し、業務を開始しました。

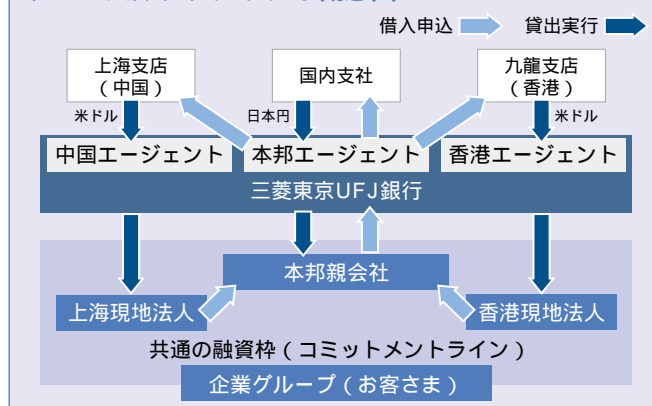
<アジア・オセアニア地域拠点>



「グローバルファシリティ」の提供

中国進出企業に対して、中国でも利用可能なグローバルファシリティを本邦で初めて提供しました。グローバルファシリティとは、海外子会社も含めた複数の借入人が、複数の通貨で借入可能なコミットメントラインです。海外展開を進める企業グループにとって、確実かつ機動的な資金調達と、グループの資金効率化を実現できる有効なツールとなります。

グローバルファシリティ概念図



統合までの歩み

MUFGグループは、統合に向けて着実に作業を進めるとともに、提携等を通じてお客さまに付加価値の高いサービスを提供する体制を整えています。



グループ経営理念

MUFGグループは、めざす姿を実現していくため、以下のグループ経営理念を制定するとともに、お客さま本位の経営を実現・徹底していくための5つの方針を掲げています。

グループ経営理念は、MUFGグループが経営活動を遂行するにあたっての最も基本的な姿勢を示した価値観であり、すべての活動の指針とするものです。

経営戦略や経営計画の策定など、経営の意思決定のよりどころとし、また、全役職員の精神的支柱として、諸活動の基本方針とします。

MUFGグループの持株会社、普通銀行、信託銀行および証券会社は、このグループ経営理念を各社の経営理念として採用し、グループ全体で遵守していきます。

グループ経営理念

- (1) お客さまの信頼と信用を旨とし、国内はもとよりグローバルにお客さまの多様なニーズに対し、的確かつ迅速にお応えする。
- (2) 新分野の開拓と新技術の開発に積極的に取り組み、革新的かつ高品質な金融サービスを提供する。
- (3) 法令やルールを厳格に遵守し、公明正大で透明性の高い経営を行い、広く社会からの信頼と信用を得る。
- (4) たゆまぬ事業の発展と適切なリスク管理により、企業価値の向上を実現すると共に、適時・適切な企業情報の開示を行い、株主の信頼に応える。
- (5) 地域の発展に寄与すると共に、環境に配慮した企業活動を通じ、持続可能な社会の実現に貢献する。
- (6) グループ社員が専門性を更に高め、その能力を発揮することができる、機会と職場を提供していく。

お客さま本位の経営を実現・徹底していくための5つの方針

- (1) お客さまのあらゆる金融ニーズにスピーディーかつ徹底してお応えします
- (2) お客さまに価値ある革新的な新商品、新サービスを次々とお届けします
- (3) お客さまの多様なニーズにお応えし、「いつでも」「どこでも」アクセスできる利便性の高い店舗・ATMネットワーク、ダイレクトチャネルを整備します
- (4) お客さまの視点で、金融商品・サービスの品質を継続的・持続的に高めます
- (5) お客さまに安心してお取引いただける信頼の経営、また、企業市民として社会的責任（CSR）をしっかりと果たす社会的責任経営を実践します

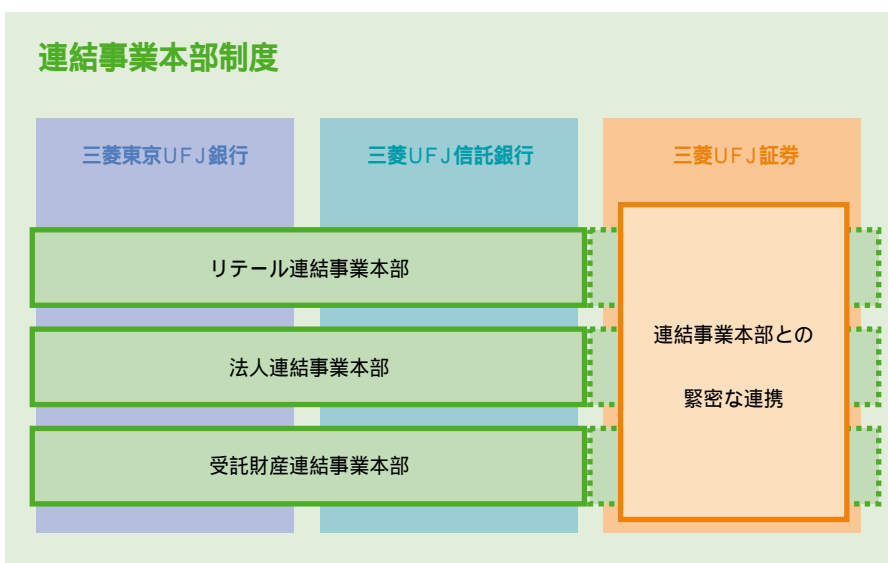
事業運営体制

MUFGグループでは、「連結事業本部制度」を導入し、お客さまのニーズにグループ一体となってお応えする体制を整えています。

24

MUFGグループでは、お客さまのさまざまな金融ニーズに的確にお応えするため、既存の業態の枠を超え、グループ一体となって付加価値の高い金融商品・サービスをタイムリーにご提供する「グループ融合型の組織体制」を構築しています。具体的には、グループ各社が緊密な連携のもと、一元的に戦略を定め、グループが一体となって事業を推進する「連結事業本部制度」を導入しています。持株会社に、リテール・法人・受託財産の主要3事業について連結事業本部を設置し、お客さまのニーズにスピーディーかつきめ細かく対応しています。

さらに、地域に密着した業務運営を行い、それぞれの地域のお客さまのニーズにしっかりとお応えしていくため、三菱東京UFJ銀行において、東日本地区、中部地区、西日本地区ごとに業務推進責任を負う担当役員を配置しているほか、サービス提供機能や審査機能も各地域に備え、地域特性を重視した機動的な金融サービスの提供に努めています。



コーポレート・ガバナンス

MUFGグループでは、「世界屈指の総合金融グループ」にふさわしいコーポレート・ガバナンス態勢を構築していきます。

持株会社のコーポレート・ガバナンス態勢

持株会社（MUFG）では、監査役と取締役を併せ置く制度のもと、「社外の視点」と任意の委員会制度の導入により、安定的で実効性の高いコーポレート・ガバナンス態勢を構築します。

1. 社外取締役の積極的な任用および任意の委員会設置

社外取締役を積極的に任用するとともに、取締役会傘下の機関として、社外取締役を委員長とし社外委員を主体とする任意の監査委員会、指名委員会、報酬委員会を設置し、社外の人材による経営監督機能を高めていきます。

2. 監査役会における社外監査役数を過半数に

社外監査役を3名とし、監査役会の過半数を社外監査役とします。

3. アドバイザリーボードの設置

社外有識者から構成されるアドバイザリーボードは、事業戦略や業務計画などの経営上の重要な課題について、独立した立場から経営会議にアドバイスをを行います。

また、持株会社では、グループ全体のガバナンスについても、グループ横断的なリスク管理や内部監査体制の構築、主要子会社への役員派遣などを通じた経営監督の強化を図っていきます。

傘下の普通銀行・信託銀行・証券会社のコーポレート・ガバナンス態勢

三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、三菱UFJ証券においても、社外取締役を任用し、それぞれ取締役会傘下の機関として、社外委員が過半数を占める監査委員会を設置、その審議内容を持株会社に報告します。
また、各社とも監査役の半数以上を社外監査役としています。

三菱東京UFJ銀行については、監査委員会にコンプライアンス専門委員会、情報セキュリティ専門委員会を併設しています。

監査委員会

委員長

浜田 広（株式会社リコー最高顧問）

委員

大木島 巖（日野自動車株式会社相談役）

田近 耕次（公認会計士）

堤 義成（弁護士）

上原 治也（当社副会長）

指名委員会

委員長

大木島 巖（日野自動車株式会社相談役）

委員

浜田 広（株式会社リコー最高顧問）

大歳 卓麻（日本アイ・ビー・エム株式会社代表取締役社長執行役員）

畔柳 信雄（当社社長）

報酬委員会

委員長

大歳 卓麻（日本アイ・ビー・エム株式会社代表取締役社長執行役員）

委員

浜田 広（株式会社リコー最高顧問）

大木島 巖（日野自動車株式会社相談役）

畔柳 信雄（当社社長）

アドバイザリーボード

江頭 邦雄（味の素株式会社代表取締役会長）

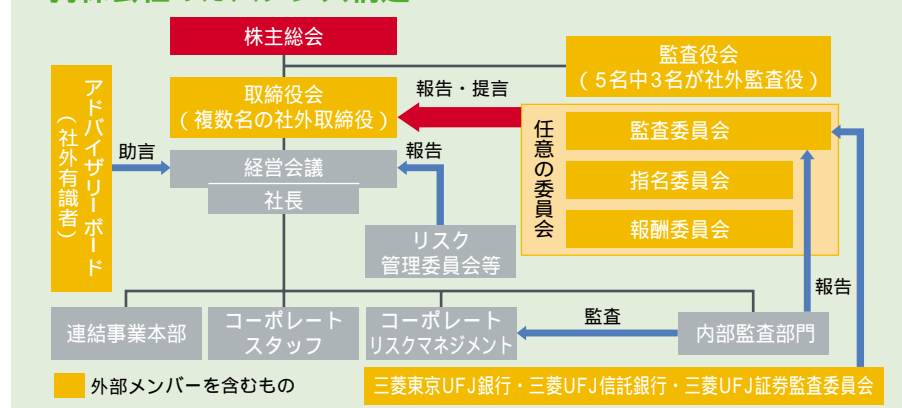
田中 直毅（21世紀政策研究所理事長）

関 哲夫（新日本製鐵株式会社常任監査役）

池尾 和人（慶応義塾大学教授）

平成17年10月1日現在

持株会社のガバナンス構造



外部メンバーを含むもの

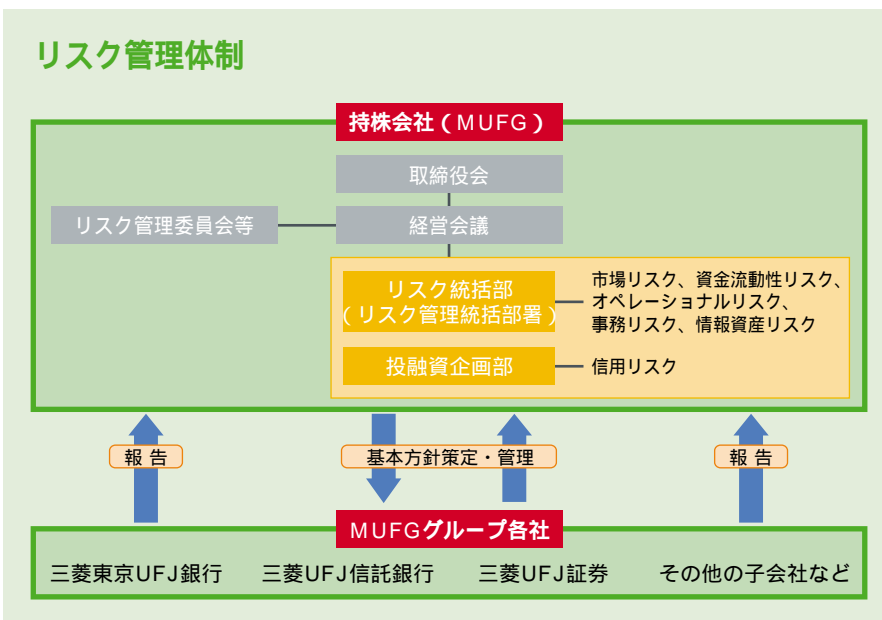
三菱東京UFJ銀行・三菱UFJ信託銀行・三菱UFJ証券監査委員会

リスク管理

MUFGグループでは、多様な金融サービスを提供する企業として、さまざまなリスクを統一的な尺度で総合的に把握したうえで、経営の安全性を確保しつつ、株主価値の極大化を追求するために統合リスク管理・運営を行うことを基本方針としています。

MUFGグループは、グループ内に普通銀行、信託銀行だけでなく、多様な金融サービスを提供する企業を擁しています。このような特徴を持つMUFGグループでは、業務遂行から生じるさまざまなリスクを統一的な尺度で総合的に把握したうえで、経営の安全性を確保しつつ、株主価値の極大化を追求するために統合リスク管理・運営を行うことを基本方針としています。

具体的には、リスク管理統括部署として、持株会社三菱UFJフィナンシャル・グループに「リスク統括部」、三菱東京UFJ銀行に「総合リスク管理部」、三菱UFJ信託銀行に「経営管理部」、三菱UFJ証券に「リスク統括部」を設置しているほか、グループ全体のリスク管理に係る方針および体制整備にかかわる重要事項を審議する機関として、持株会社内に「リスク管理委員会」を設置しています。持株会社が決定したグループ全体のリスク管理に係る方針に則り、グループ各社がそれぞれリスク管理態勢を整備し、リスク管理を行うことで、グループ全体のリスク管理態勢の確立・維持発展に努めています。



コンプライアンス

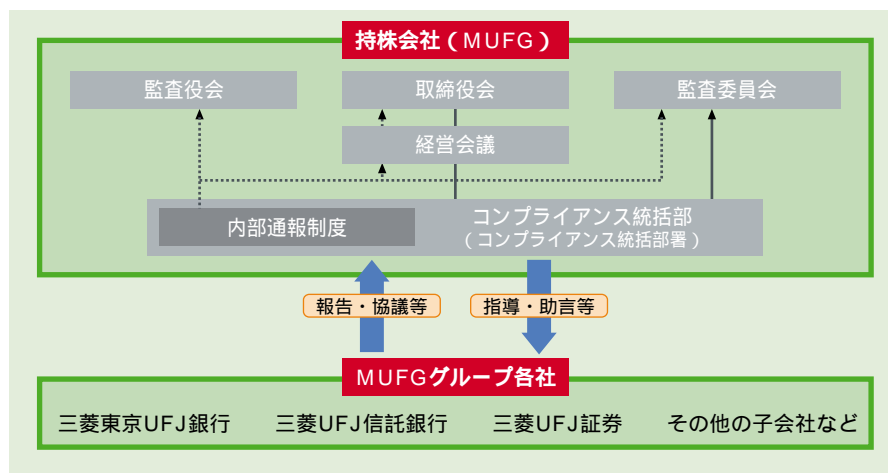
MUFGグループでは、「法令やルールを厳格に遵守し、公明正大で透明性の高い経営を行い、広く社会からの信頼と信用を得る」ことをグループ経営理念のひとつに掲げ、グループ全体でコンプライアンス（法令等遵守）を徹底していきます。

持株会社三菱UFJフィナンシャル・グループに、コンプライアンスに関する統括部署として、「コンプライアンス統括部」を設置するとともに、社外委員を主体とする任意の監査委員会を設置して、グループ全体のコンプライアンスにかかわる重要事項の審議を行い、必要な改善事項を取締役に提言し、コンプライアンス態勢の整備、コンプライアンス意識の向上につなげています。

三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、三菱UFJ証券においてもコンプライアンス統括部や監査委員会、コンプライアンス委員会などを設置し、各々コンプライアンスの推進に取り組んでいます。

また、通常の業務ラインによる報告ルートに加え、社外の受付窓口を含む内部通報制度を設置して、コンプライアンス違反の早期発見、監査委員会などへの適時適切な報告を通じて自浄能力の発揮につなげるとともに、グループにおける会計に係る事案の通報窓口として、「会計監査ホットライン」を開設しています。

会計監査ホットライン
グループ会社における会計、会計に係る内部統制および会計監査に係る不正処理（法令等に違反した事案）や不適切な処理もしくはこれらが疑われる処理などについての通報窓口として会計監査ホットラインを開設しています。



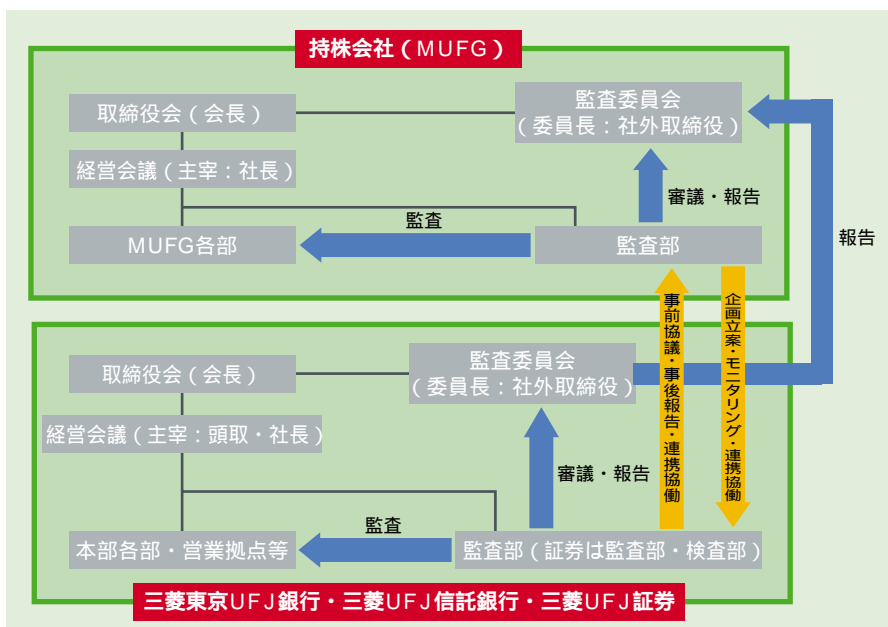
内部監査

MUFGグループでは、内部監査部署として、持株会社、普通銀行、信託銀行に「監査部」を、証券会社に「監査部・検査部」を設置しています。

MUFGグループでは、持株会社三菱UFJフィナンシャル・グループ、三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行に「監査部」、三菱UFJ証券に「監査部・検査部」を設置しています。これらの内部監査部署が中核となって、グループ全体を検証範囲としてカバーするとともに、持株会社取締役会によるグループ全体の業務の監視・監督をサポートする体制としています。持株会社監査部は、グループ全体の内部監査に係る企画・立案を主導するほか、子会社などの内部監査部署をモニタリングし、必要な指導、助言、管理を行います。

また、取締役会の業務監督機能を強化し、内部監査の独立性を高める目的で、社外取締役を委員長とする監査委員会を中核会社それぞれに設置しています。各社内部監査部署からの報告などは、監査委員会に直接行うことにより、業務執行部門からの独立性を高めています。

中核会社
中核会社とは、持株会社の三菱UFJフィナンシャル・グループと、三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、三菱UFJ証券のことで。



平成17年度中間決算（連結）について <三菱東京フィナンシャル・グループ>

連結業務純益は順調に推移するとともに、財務内容の健全性が一層向上しました。

社名は平成17年9月30日時点の旧社名

連結業務純益は順調に推移

連結業務純益（一般貸倒引当金繰入前・信託勘定償却前）は、トレジャリー収益の減益や営業費の増加があったものの、リテール・法人・受託財産の顧客3事業における手数料関連収益の増加により、前年同期に比べ364億円増加し、4,253億円となりました。中間純利益は、与信関係費用の減少や株式関係損益の改善により、前年同期に比べ1,290億円増加の3,006億円となりました。

財務内容の健全性が一層向上

中間純利益の積み上げや平成17年8月の優先出資証券の発行などにより、連結自己資本比率（国際統一基準）は、前年度末と比べ0.24ポイント改善し、12.01%となりました。

不良債権残高は、前年度末と比べ、2,054億円減少し、1兆862億円となりました。また、不良債権比率も2.21%と前年度末と比べ0.44ポイント低下し、一層の健全化を図ることができました。

連結損益の状況

（単位：億円）

| | 平成16年度中間期 | 平成17年度中間期 | 増減 |
|----------------------------|-----------|-----------|-------|
| 連結粗利益（信託勘定償却前） | 8,882 | 9,459 | 576 |
| 営業費 | 4,993 | 5,205 | 211 |
| 連結業務純益（一般貸倒引当金繰入前・信託勘定償却前） | 3,889 | 4,253 | 364 |
| 臨時損益 | 762 | 438 | 324 |
| 経常利益 | 3,103 | 3,811 | 708 |
| 特別損益 | 175 | 1,131 | 956 |
| 中間純利益 | 1,716 | 3,006 | 1,290 |
| 与信関係費用（は費用） | 563 | 599 | 1,163 |

連結バランスシートの状況

（単位：億円）

| | 平成17年3月末 | 平成17年9月末 | 増減 |
|----------------------------|-------------------|-------------------|---------------------|
| 貸出金（銀行勘定 + 信託勘定） | 470,142 | 474,157 | 4,014 |
| うち住宅ローン | 81,328 | 82,282 | 953 |
| うち海外貸出（海外支店貸出 + 海外現地法人 貸出） | 81,380 | 90,953 | 9,572 |
| 有価証券 | 288,234 | 304,760 | 16,526 |
| 預金 | 675,487 | 683,856 | 8,369 |
| 連結自己資本比率（国際統一基準） | 11.76% | 12.01% | 0.24ポイント |
| 不良債権（金融再生法開示債権）残高 （同比率） | 12,917 (2.65%) | 10,862 (2.21%) | 2,054 (0.44ポイント) |
| その他有価証券含み損益 | 9,859 | 15,878 | 6,018 |

ユニオンバンク・コーポレーション、東京三菱銀行信託会社
 単体合算

平成17年度決算（連結）について ＜UFJホールディングス＞

連結当期純利益が大幅に改善するとともに、財務の健全化も着実に進展しました。

社名は平成17年9月30日時点の旧社名

連結当期純利益は大幅に改善

連結業務純益（一般貸倒引当金繰入前・信託勘定償却前）は前年同期に比べ減少したものの、貸出資産の質の改善による与信関係費用の減少が収益を大きく押し上げました。特に与信関係費用は2,146億円の戻入益計上となり、前年同期比9,124億円の改善となりました。この結果、連結当期純利益は4,110億円と前年同期の6,742億円の損失に比べ1兆円以上増加しました。

財務の健全化も着実に進展

収益の改善を主因に、連結自己資本比率（国際統一基準）は、前年度末と比べ1.27ポイント改善し、11.67%となりました。また、引き続き不良債権のオフバランス化を積極的に進めた結果、不良債権比率は3.32%と前年度末と比べ0.79ポイント低下し、財務の健全化も着実に進展しました。

連結損益の状況

（単位：億円）

| | 平成16年度中間期 | 平成17年度 | 増減 |
|----------------------------|-----------|--------|--------|
| 連結粗利益（信託勘定償却前） | 8,040 | 7,514 | 526 |
| 営業費 | 3,505 | 3,632 | 126 |
| 連結業務純益（一般貸倒引当金繰入前・信託勘定償却前） | 4,535 | 3,881 | 653 |
| 臨時損益 | 15,746 | 324 | 15,422 |
| 経常利益（は損失） | 4,748 | 3,552 | 8,301 |
| 特別損益 | 445 | 2,112 | 1,666 |
| 当期純利益（は損失） | 6,742 | 4,110 | 10,853 |
| 与信関係費用（は費用） | 6,977 | 2,146 | 9,124 |

連結バランスシートの状況

（単位：億円）

| | 平成17年3月末 | 平成17年9月末 | 増減 |
|----------------------------|-------------------|-------------------|---------------------|
| 貸出金（銀行勘定+信託勘定） | 379,888 | 382,867 | 2,978 |
| うち住宅ローン | 100,693 | 102,589 | 1,895 |
| うち海外支店貸出 | 18,145 | 18,581 | 436 |
| 有価証券 | 217,707 | 217,770 | 62 |
| 預金 | 507,257 | 503,154 | 4,102 |
| 連結自己資本比率（国際統一基準） | 10.39% | 11.67% | 1.27ポイント |
| 不良債権（金融再生法開示債権）残高 （同比率） | 17,162 (4.12%) | 13,994 (3.32%) | 3,168 (0.79ポイント) |
| その他有価証券含み損益 | 3,989 | 5,293 | 1,303 |
| 単体合算 | | | |

UFJホールディングスは、平成17年10月1日の三菱東京フィナンシャル・グループとの合併において消滅会社となったため、平成17年度上期（平成17年4月1日～平成17年9月30日）が平成17年度決算（最終決算）となります。

〔ご参考〕平成17年度中間決算について <三菱UFJフィナンシャル・グループ>

中間純利益は7,117億円の黒字、連結自己資本比率も概算で12.0%となりました。

三菱東京フィナンシャル・グループとUFJホールディングスの単純合算

連結業務純益（一般貸倒引当金繰入前・信託勘定償却前）は若干の減益となりましたが、与信関係費用の大幅減少などを主因に中間純利益は7,117億円の黒字となりました。

貸出金は、海外貸出や住宅ローンの増加を主因に前年度末比6,993億円増加。預金は国内個人預金を中心に前年度末比4,267億円増加しました。

中間純利益の積み上げなどにより自己資本の充実は着実に進展しました。その結果、連結自己資本比率は概算で12.0%となりました。

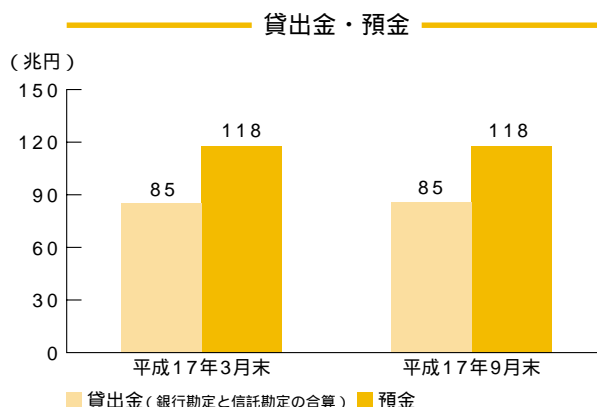
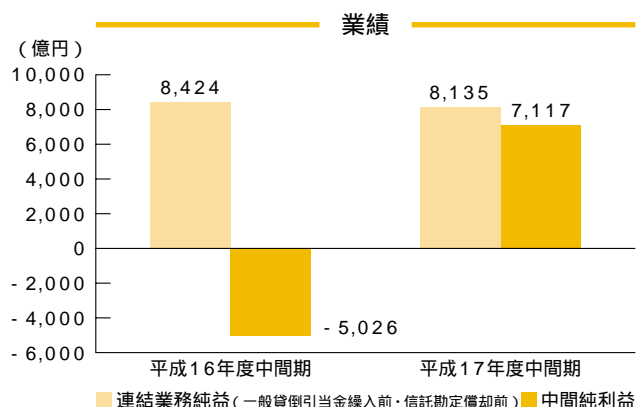
自己資本比率の算定にあたっては、合算における調整を行っています。

連結損益の状況（単純合算）

| | （単位：億円） | | |
|----------------------------|-----------|-----------|--------|
| | 平成16年度中間期 | 平成17年度中間期 | 増減 |
| 連結粗利益（信託勘定償却前） | 16,923 | 16,973 | 49 |
| 営業費 | 8,499 | 8,837 | 338 |
| 連結業務純益（一般貸倒引当金繰入前・信託勘定償却前） | 8,424 | 8,135 | 288 |
| 中間純利益（は損失） | 5,026 | 7,117 | 12,143 |
| 与信関係費用（は費用） | 7,541 | 2,745 | 10,287 |

連結バランスシートの状況（単純合算）

| | （単位：億円） | | |
|----------------|-----------|-----------|---------|
| | 平成17年3月末 | 平成17年9月末 | 増減 |
| 貸出金（銀行勘定+信託勘定） | 850,031 | 857,024 | 6,993 |
| 有価証券 | 505,941 | 522,531 | 16,589 |
| 預金 | 1,182,744 | 1,187,011 | 4,267 |
| 連結自己資本比率（概算） | 11.5% | 12.0% | 0.5ポイント |
| その他有価証券含み損益 | 13,849 | 21,171 | 7,322 |

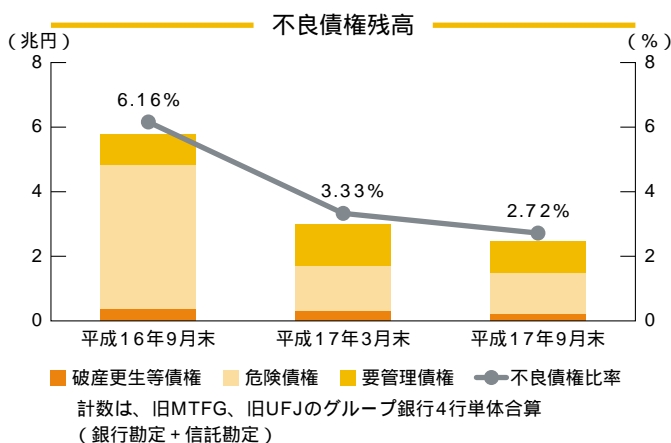


不良債権の状況

不良債権比率は2.72%、与信関係費用は約3,700億円のプラスになるなど、貸出資産の質は引き続き改善しています。

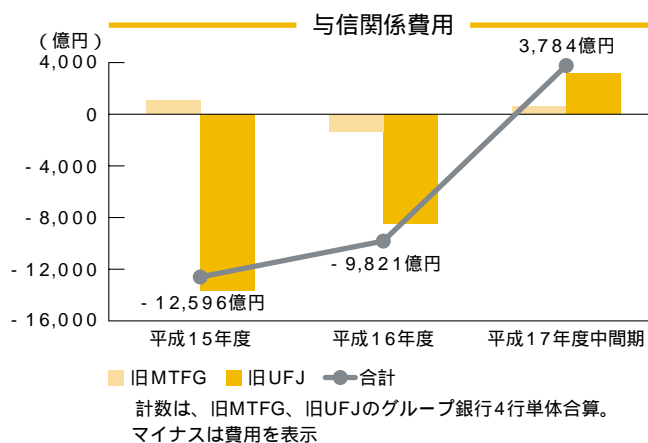
不良債権比率は2.72%

平成17年9月末における旧MTFG、旧UFJのグループ銀行4行単体合算の不良債権（金融再生法開示債権）残高は、「正常先債権」への格上げならびに既存不良債権の回収などを主因に、平成17年3月末と比べ約5,200億円減少し、約2.5兆円となりました（うち旧MTFG約1.1兆円、旧UFJ約1.4兆円）。また、貸出金など与信全体に対する不良債権の割合（不良債権比率）は、平成17年3月末の3.33%から0.6ポイント低下し2.72%となりました。



与信関係費用は約3,700億円のプラス

平成17年度中間期は、両グループともにお取引先の財務内容の改善などを主因に大幅な貸倒引当金の戻し入れが発生した結果、旧MTFG、旧UFJのグループ銀行4行単体合算の与信関係費用は、約3,700億円の「益」となりました（うち旧MTFGは約600億円、旧UFJは約3,100億円の「益」を計上）。MUFJグループでは、引き続きお取引先の再生に向けた取り組みを支援していきます。



金融再生法開示債権残高内訳

(単位：億円)

| | 平成16年9月末 | | | 平成17年3月末 | | | 平成17年9月末 | | |
|-------------|----------|---------|---------|----------|---------|---------|----------|---------|---------|
| | 旧MTFG | 旧UFJ | 4行単体合算 | 旧MTFG | 旧UFJ | 4行単体合算 | 旧MTFG | 旧UFJ | 4行単体合算 |
| 破産更生等債権 | 1,078 | 2,595 | 3,673 | 1,034 | 1,757 | 2,791 | 798 | 1,146 | 1,945 |
| 危険債権 | 11,680 | 32,709 | 44,390 | 7,299 | 6,773 | 14,072 | 6,191 | 6,478 | 12,669 |
| 要管理債権 | 3,566 | 6,238 | 9,804 | 4,583 | 8,632 | 13,216 | 3,873 | 6,369 | 10,242 |
| 金融再生法開示債権合計 | 16,325 | 41,543 | 57,868 | 12,917 | 17,162 | 30,080 | 10,862 | 13,994 | 24,857 |
| 正常債権 | 480,978 | 399,093 | 880,071 | 473,619 | 399,158 | 872,777 | 480,068 | 406,676 | 886,744 |

【合併に伴うお知らせ】識別マークについて

システムの本格統合までの間、店舗によりご利用いただける商品・サービスなどが一部異なることがあります。以下の識別マークを店舗入口やATMに表示しておりますので、ご確認のうえご利用いただきますようお願い申し上げます。

三菱東京UFJ銀行に 口座をお持ちのお客さまへ

旧東京三菱マーク



このマークが
表示されている
店舗・ATMの場合、

旧東京三菱銀行に
口座をお持ちのお客さま

従来と同様にご利用
いただけます

旧UFJマーク



このマークが
表示されている
店舗・ATMの場合、

旧東京三菱銀行に
口座をお持ちのお客さま

ご利用いただける
サービスが一部異なる
場合がございます

旧UFJ銀行に
口座をお持ちのお客さま

ご利用いただける
サービスが一部異なる
場合がございます

お問い合わせは
三菱東京UFJ銀行 合併照会センター
フリーダイヤル 0120-689-105
受付時間：月～金曜日 9:00～17:00
(土・日・祝日等の銀行窓口休業日を除く)

三菱UFJ信託銀行に 口座をお持ちのお客さまへ

旧三菱信託マーク



このマークが
表示されている
店舗・ATMの場合、

旧三菱信託銀行に
口座をお持ちのお客さま

従来と同様にご利用
いただけます

旧UFJ信託銀行に
口座をお持ちのお客さま

ご利用いただける
サービスが一部異なる
場合がございます

旧UFJ信託マーク



このマークが
表示されている
店舗・ATMの場合、

旧三菱信託銀行に
口座をお持ちのお客さま

ご利用いただける
サービスが一部異なる
場合がございます

旧UFJ信託銀行に
口座をお持ちのお客さま

従来と同様にご利用
いただけます

お問い合わせは
三菱UFJ信託銀行 インフォメーションデスク
フリーダイヤル 0120-349-250
受付時間：平日・土・日 9:00～17:00
(祝日等を除く)



MUFG

三菱UFJフィナンシャル・グループ

三菱東京UFJ銀行

三菱UFJ信託銀行

三菱UFJフィナンシャル・グループ
中間期ディスクロージャー誌 2005 本編

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ 経営企画部 IR室
〒100-8330 東京都千代田区丸の内2-7-1
電話：03(3240)8111(代表)
URL: <http://www.mufg.jp/>

株式会社三菱東京UFJ銀行 広報部
〒100-8388 東京都千代田区丸の内2-7-1
電話：03(3240)1111(代表)
URL: <http://www.bk.mufg.jp/>

三菱UFJ信託銀行株式会社 経営企画部 広報室
〒100-8212 東京都千代田区丸の内1-4-5
電話：03(3212)1211(代表)
URL: <http://www.tr.mufg.jp/>

平成18年1月発行
本誌は再生紙、大豆インキを使用しています。

